

科目名	地理学の基礎Ⅱ	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群		
			全学科	□必修 ■選択	
英文表記	Geography Ⅱ	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 □後期 □通年 ■集中		
ふりがな	いちかわ たかし	実務家教員担当科目	修得単位	2単位	
担当者名	市川 聖	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	地誌学概論				
到達目標	1. 地理学の知識を応用して、グローバルな視点で諸事象を分析できる資質を養う。 2. 日本を含めた世界の地誌について分析できるようにする。				
授業概要	1. 地理学の知識を応用して、諸事象を分析する資質を養う。 2. 地理学的な分析手法を習得する。				
授業計画					
第1回	ガイダンス	地誌学とは何か 地理学の思想と歴史の変遷			
第2回	地理学の基礎と地域研究の方法1	グローバル化の動向 民族問題			
第3回	地理学の基礎と地域研究の方法2	世界の農業と工業 人口と食料問題			
第4回	都市と農村の地理	都市地理と農村地理 地域調査の方法			
第5回	日本の地誌1	日本各地域の課題（東日本）			
第6回	日本の地誌2	日本各地域の課題（西日本）			
第7回	アジア・太平洋の課題と地域1	東アジア・東南アジア			
第8回	アジア・太平洋の課題と地域2	ロシア・西アジア・オセアニア			
第9回	地誌学のまとめ1	地域研究			
第10回	欧米の課題と地域1	アメリカ・ラテンアメリカ			
第11回	欧米の課題と地域2	ヨーロッパ			
第12回	アフリカ地域研究	アフリカ			
第13回	グローバル化の諸課題	新興国および発展途上国			
第14回	世界の自然地理と環境	自然地理と環境問題			
第15回	地誌学のまとめ2	講義のまとめと地理学の研究手法			
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 授業前には教科書の該当箇所に必ず目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。(1.5時間程度) 2. 授業開始前に、前回講義内容の確認テストを行うこともあります。前回講義の復習をしっかりと行ってください。(1.5時間程度) 3. 日常的に地理的(地形、風土など)な観察を行うように心がけてください。 4. 地域社会の課題について新聞やニュースを通して考えるように心がけてください。				
履修条件 受講のルール	特にありません。 地理学の基礎Ⅰでは「系統地理」、地理学の基礎Ⅱでは「地誌学」を中心に講義します。				
テキスト	矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・古田悦造『地誌学概論(第2版)』朝倉書店(2020) とうほう『新編地理資料2021』				
参考文献・資料	講義中に紹介しますが、以下の文献では地誌学の基礎を学ぶことができます。 帝国書院『新詳高等地理』 菊池俊夫『日本(世界地誌シリーズ)』朝倉書店(2011)				

成績評価の方法	<p>総合評価【定期試験(50%)、レポート・小テスト(30%)、事前課題(20%)】 上記評価項目を基に総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であることを確認するため、授業中に小テストを行うこともあります。 ・レポート課題は授業内に指示します。
オフィスアワー	講義時間前後
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	<p>日常的に「考える」という作業を心がけてください。知識を暗記するだけでなく、現代の社会で実際に知識を応用することを意識してください。地理学を通してあらゆる分野に応用できるようにします。とくに「自然と地理」では、自然現象についても解説します。日常生活の中での自然を考える機会にしてください。</p>